

小金井市産業振興プラン (素案)

賑わいの形成・循環でまちの活性化を目指して

令和8年1月
小金井市

目 次

第1章 プランの概要.....	1
1. 目的.....	1
2. 位置付け.....	1
3. 賑わいづくりと地域産業基盤の形成.....	2
4. 産業振興の方向性.....	3
第2章 産業面からみた小金井市の現状.....	4
1. 市内産業の現状.....	4
2. 買物行動の現状.....	5
3. 商業事業者の現状.....	6
4. 工業事業者の現状.....	7
5. 農業の現状.....	8
6. 創業・起業支援等の現状.....	8
7. 小金井市の強みと弱み.....	9
第3章 産業振興の取組体系.....	10
1. 基本目標.....	10
2. 2つの視点.....	10
3. 6つの方針.....	11
第4章 方向性に基づく取組.....	12
方針① 暮らしていて楽しい・訪れて楽しい魅力を生み出す.....	12
方針② 魅力を生み出す人と育み、増やす.....	15
方針③ 魅力を生み出す人をつなげ、応援する人を増やす.....	17
方針④ 住みたい・働きたい・訪れたいと思うような魅力を伝える.....	19
方針⑤ 誰もが安心して出かけられる環境をつくる.....	21
方針⑥ 事業・活動を継続していくための仕組みをつくる.....	22
第5章 プランの実行に向けて.....	24
1. 市の役割.....	24
2. 各主体の役割.....	24
3. 評価の考え方.....	26

第1章 プランの概要

1. 目的

小金井市産業振興プランは、将来にわたって活気があふれ、楽しく豊かに暮らすことができるまちであり続けることを長期的な目的として、今後5年間における産業振興の目標と方向性を整理するために策定する行政計画です。

本市は、新宿駅を始めとして吉祥寺駅や立川駅などの都心や繁華街にもアクセスしやすい点や、生活やサービス等の質を求める市民の特性もあり、小さいながらも質が高くユニークな「小商い」が市内に点在していること等がまちの魅力につながり、全国的な人口減少下にもかかわらず人口増加が続いている状況です。また、武蔵小金井駅前等の再開発による大型商業施設の立地等により今後も利便性は高まっていくと考えます。

都心や繁華街にアクセスしやすいだけでなく、住んでいるところで楽しく豊かに暮らすことができる賑わいを事業者、市民、行政等がそれぞれの立場から生み出すとともに、その賑わいづくりの持続可能性を担保するためにも稼ぐ事業者を増やし、地域産業基盤の形成にもアプローチすることで、生活者と事業者双方においてまちの活性化を図ることを目的として、令和8年度から令和12年度までを計画期間とした本プランを策定します。

2. 位置付け

本プランは、令和7年度末に策定される第5次小金井市基本構想・後期基本計画（以下「後期計画」という。）に掲げる産業・観光分野の目指す姿「多様で豊かな市民力あふれる生活都市にふさわしい産業・観光の創出・育成に継続的に取り組み、地域の付加価値を高める、ふれあいと活力のあるまち」の実現を目指す個別計画として位置付けられます。

後期計画において農業分野の目指す姿として掲げられた「多面的機能を持つ農地の適正な保全を図り、有効活用することにより、都市と農地が共存し、市民生活を豊かにするまち」の実現については小金井市農業振興計画において目指すものとしつつ、農業生産物の販売及び付加価値の付与については、商業・観光の観点から本プランにおいても取り組むものとします。

また、小金井市デジタル田園都市構想総合戦略、小金井市都市計画マスタープラン等とも連携し、賑わいづくり及び産業立地の観点から関係する施策を位置付けます。

3. 賑わいづくりと地域産業基盤の形成

本プランでは「賑わい」を、出かける目的地となる「ところ」があり、そこを多くの人が訪れていることと捉えます。ただし、一度切りの利用では賑わいにはなりません。目的地となる商店・飲食店のファンになり、何度も通い、誰かに薦め、ファンの輪を広げることで、目的地となる「ところ」を買い支えることが必要です。さらに、その周辺にもシャワー効果をもたらすような行動を呼び起こしていることが望まれます。

目的地となる「ところ」は商店・飲食店はもとより、農業者が営む直売所や公園、文化施設、更には市内各所のオープンスペースで行われるイベントも含まれます。

市民が出かける目的地があり、そこに市民及び市外在住者が出かけることが「賑わい」を生み出します。そして、そこで購買行動がなされることで商店・飲食店が潤い、そこから地域経済循環の中で目的地が維持され、増えていくような展開をつくっていくことが重要であり、循環を生み出すことが賑わいづくりです。

このような賑わいづくりに継続して取り組んでいくためには地域での経済循環が必要であると同時に、地域産業基盤の形成が不可欠であり、稼ぐ事業者が求められます。そのためには地域経済の担い手である商業者・工業者の支援・応援、そして商業者・工業者の支援・応援をする中間支援団体※である商工会・商店会・観光まちおこし協会の後ろ支えも必要です。

本プランは、稼ぐ事業者を増やしていくことを見据えつつ、地域産業基盤の形成を図りながら、その上で持続可能な賑わいづくりに取り組んでいきます。



賑わいづくりのイメージ

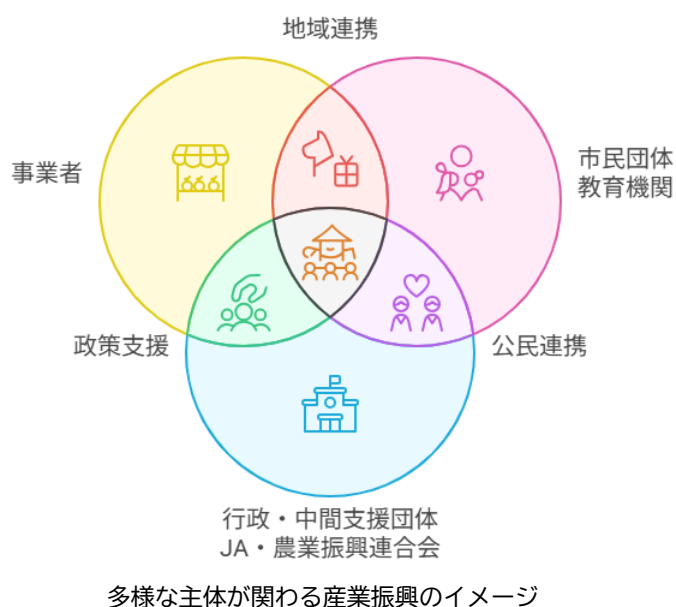
※本プランでは、商工会、商店会、小金井市観光まちおこし協会の3団体を産業振興における中間支援組織と位置付け、以降、3団体について記載する場合には「中間支援団体」という。

4. 産業振興の方向性

産業振興を考える上では小金井の地域性を踏まえた商品やサービスを求めることが大切ですが、それとともに「多様な人々が主体的に関わり、支え合う」といった地域性も大切にしていけることも必要です。

地域での経済循環を創出するためには、地域への共感及び応援の意識をもって買物をするのが大切です。賑わいづくりのためのイベント、PR活動などの事業に参画し、創業・起業により地域産業基盤の担い手となることも考えられます。また、市内に立地する大学等の教育機関との学び及び研究をテーマにした連携並びに鉄道事業者との協働による駅周辺のエリアブランディング及び活性化も期待されます。

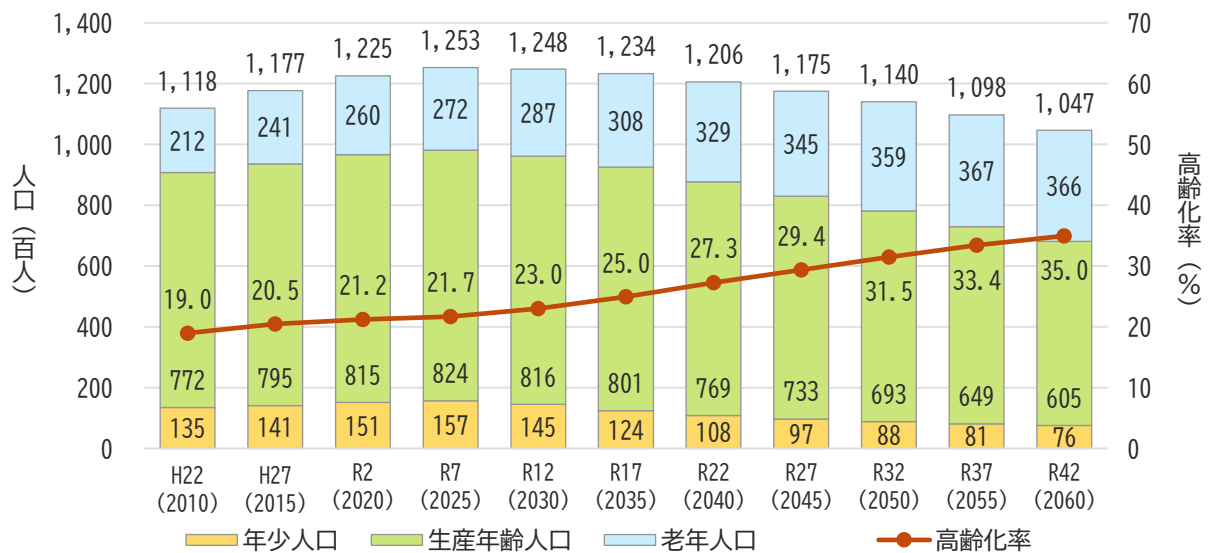
事業者のみならず、行政や商工会、商店会、観光まちおこし協会という産業振興における中間支援団体、そして市民団体や教育機関とも連携しながら産業振興に取り組んでいきます。



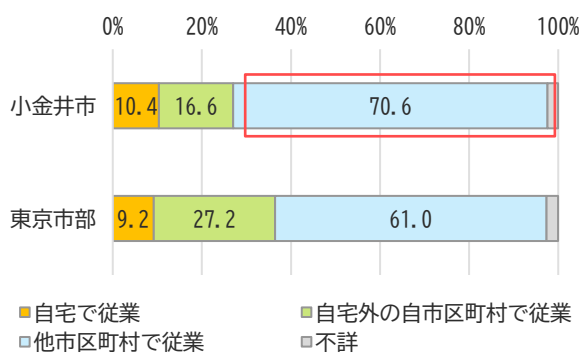
第2章 産業面からみた小金井市の現状

1. 市内産業の現状

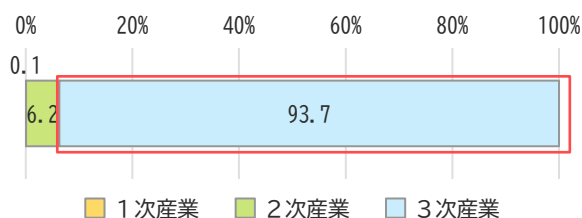
- 全国的な人口減少下にあっても市内人口は増加傾向にあり、選ばれるまちである。
- 市民の就労先の多くは市外であり、オフィスワーカーが多い。
- 市内産業のほとんどが3次産業であり、郊外生活都市という性格を有している。



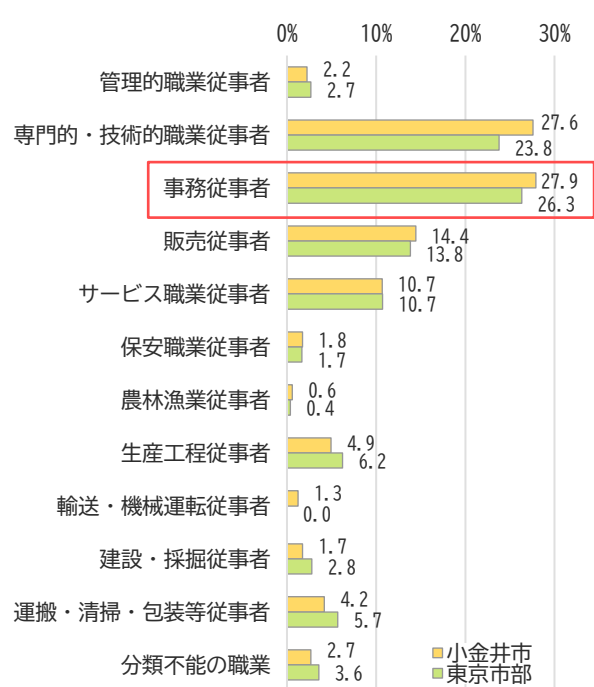
小金井市の人口推計（出典：小金井市資料）



市民の就業先（出典：令和2年国勢調査）



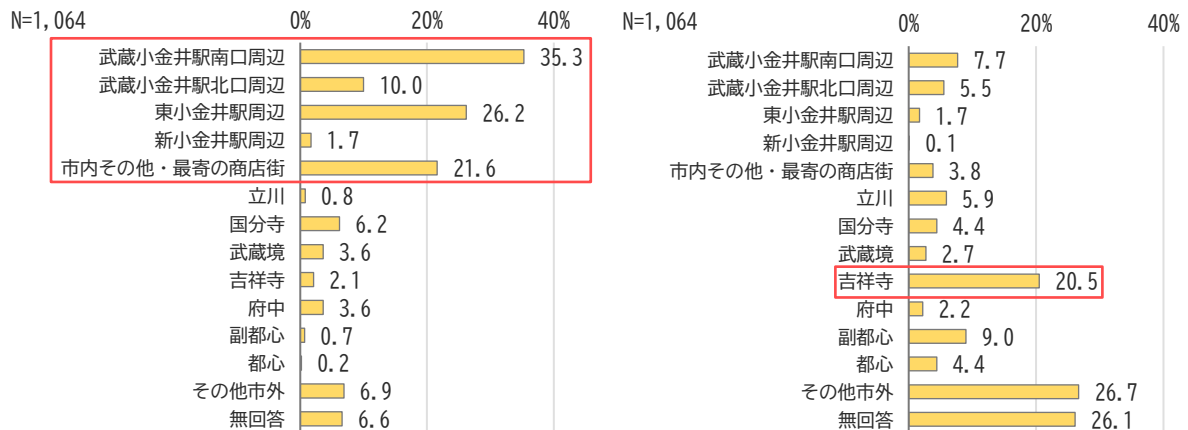
産業3部門別割合（出典：令和3年経済センサス）



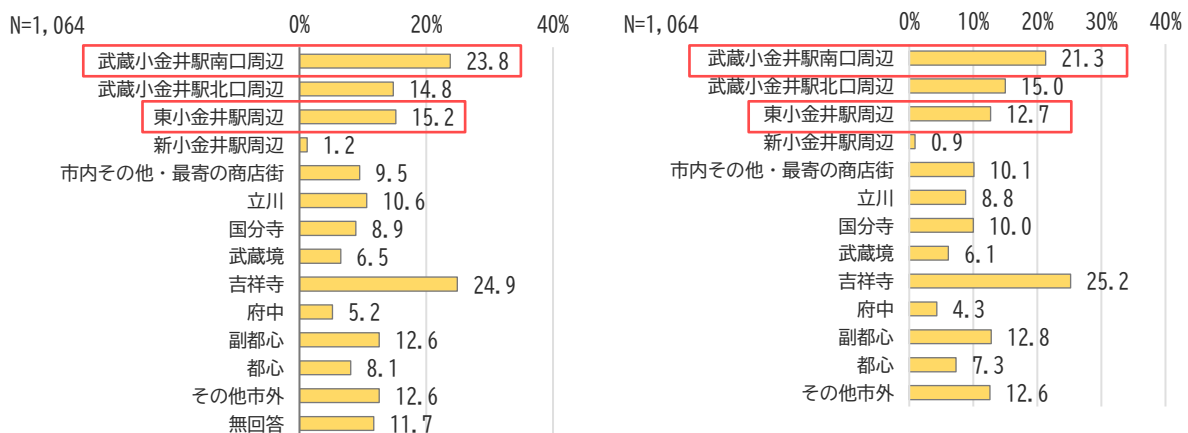
市民の職業（出典：令和2年国勢調査）

2. 買物行動の現状

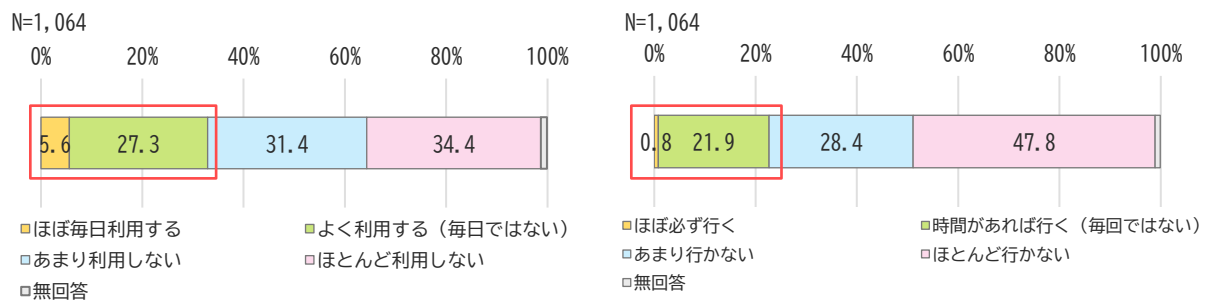
- 生鮮食料品、日用品などの日頃の買物は、市内で完結している。
- 外食・喫茶・趣味的の高い買物は、吉祥寺等の市外商業集積地に流出している。ただし、飲食については武蔵小金井駅南口又は東小金井駅周辺が選ばれるようになってきている。
- 商店街を日常的に利用している人は3割程度だが、イベント参加割合はそれ以下であり、更に半数がイベントに参加していない。



左図＝生鮮食品の購入場所 右図＝趣味的なものの購入場所（出典：小金井市「商業・工業基礎調査」（令和7年3月））



左図＝令和7年度調査における外食先 右図＝令和2年度調査における外食先
（出典：小金井市「商業・工業基礎調査」（令和7年3月）、小金井市「商業・工業基礎調査」（令和2年3月））

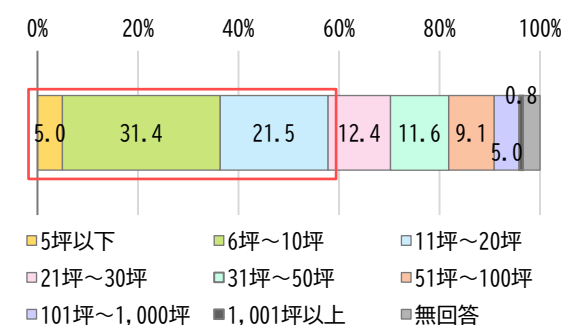


商店街の利用状況
（出典：小金井市「商業・工業基礎調査」（令和7年3月））

商店街でのイベントへの参加状況
（出典：小金井市「商業・工業基礎調査」（令和7年3月））

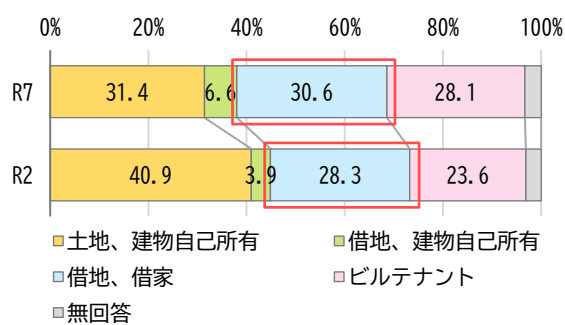
3. 商業事業者の現状

- 小さな商店・飲食店が多く、地域に根差した商業が展開されていることが伺えるが、チェーン店が増えつつある。
- 来客は増えているものの、原材料・人件費の高騰のため利益が上がっているという事業所は限定的である。
- 会員不足により商店会の運営が困難になっており、持続可能な体制構築が求められる。



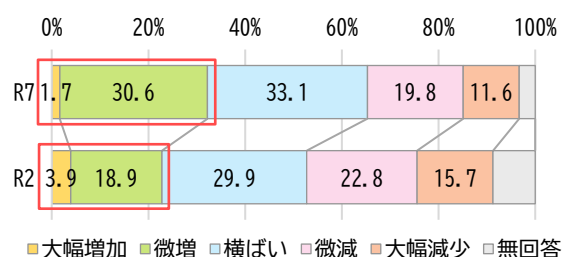
店舗面積

(出典：小金井市「商業・工業基礎調査」(令和7年3月))



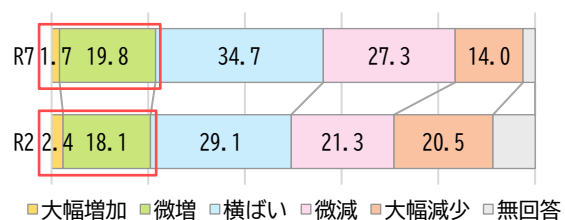
店舗の所有形態

(出典：小金井市「商業・工業基礎調査」(令和7年3月)
小金井市「商業・工業基礎調査」(令和2年3月))



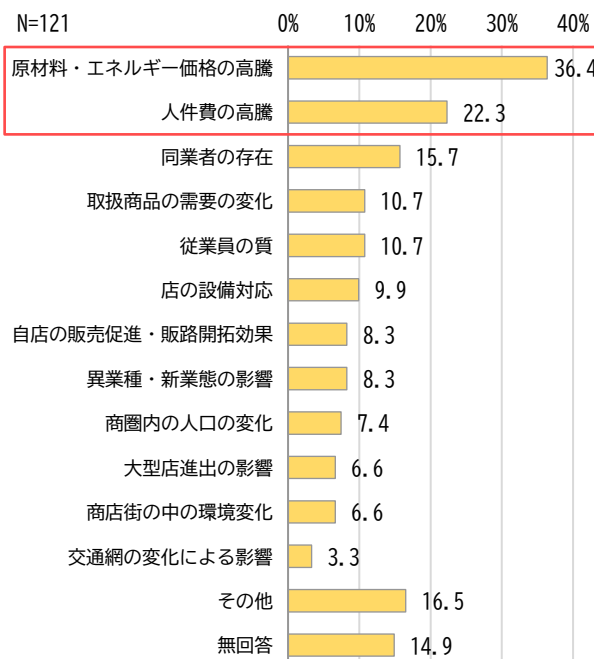
来客数の推移

(出典：小金井市「商業・工業基礎調査」(令和7年3月)
小金井市「商業・工業基礎調査」(令和2年3月))



粗利益の推移

(出典：小金井市「商業・工業基礎調査」(令和7年3月)
小金井市「商業・工業基礎調査」(令和2年3月))

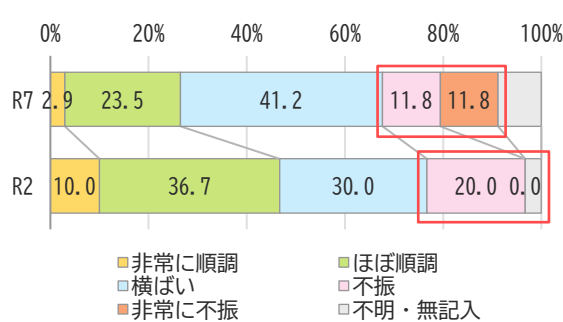


事業の継承者として考えている人

(出典：小金井市「商業・工業基礎調査」(令和7年3月))

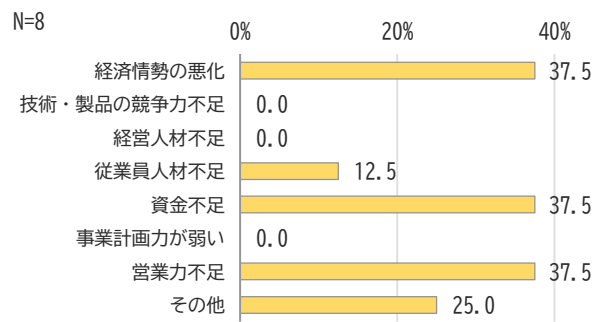
4. 工業事業者の現状

- 原材料・人件費等の高騰の中で、業績が悪化しているという事業所が増えている。
- 住宅都市であるための操業の難しさ（近隣住民の苦情等）は見られないが、人材の確保に課題を感じる事業者が多い。
- 経営者が高齢化する中であって、事業承継に関する課題を感じる事業所が見られる。



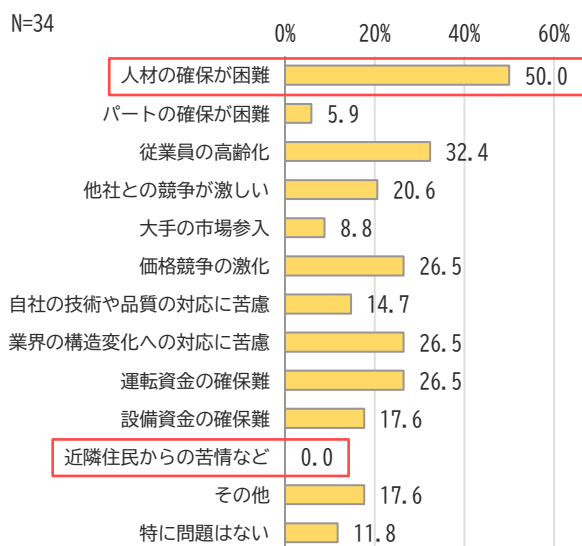
経営状況の推移

(出典：小金井市「商業・工業基礎調査」(令和7年3月))
 小金井市「商業・工業基礎調査」(令和2年3月))



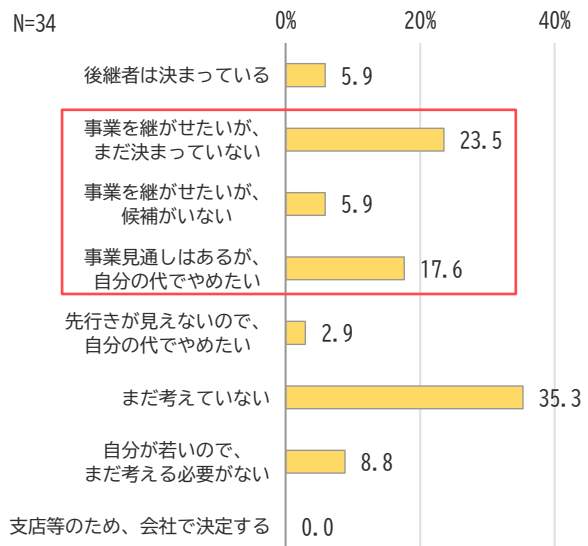
経営不振の主な要因

(出典：小金井市「商業・工業基礎調査」(令和7年3月))



経営上特に困っている問題

(出典：小金井市「商業・工業基礎調査」(令和7年3月))

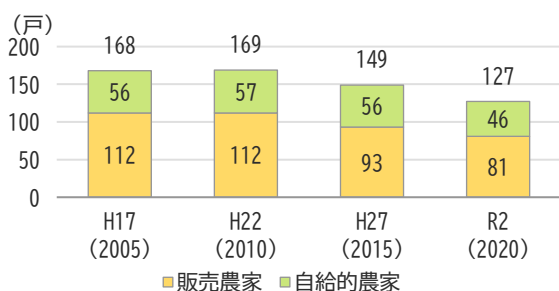


経営上特に困っている問題

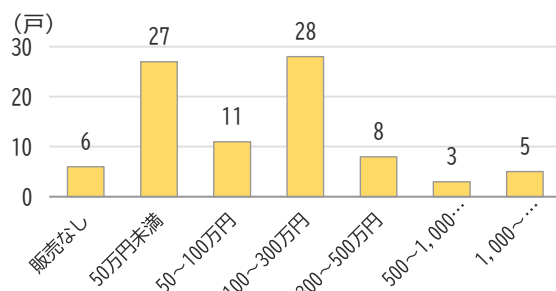
(出典：小金井市「商業・工業基礎調査」(令和7年3月))

5. 農業の現状

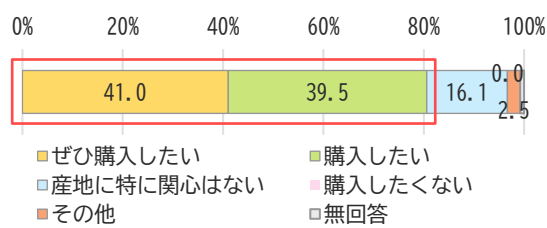
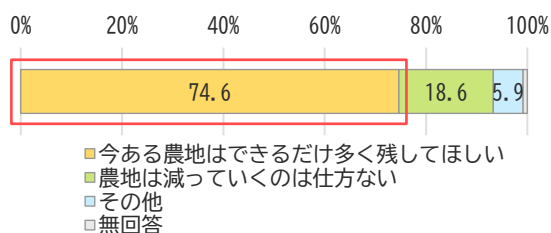
- 農業者及び農地は年々減少傾向にあり、農産物販売額の規模が小さな農業者が多い。
- 農地が残ってほしいと思う市民が多く、また、市内生産物を購入したいと思う市民が数多くいる。ただし、市内生産物を直売所のほかに手にする機会が限られている。
- 農に関するイベントが多く開催されており、農業者とも連携が図られている。



農家数の推移 (出典：2020 年農林業センサス)



農産物販売額規模別農家数 (出典：2020 年農林業センサス)



左図＝農地に関する市民意向 右図＝小金井市産の農産物の購入意向
(出典：小金井市農業振興計画の策定に関する市民アンケート調査)

6. 創業・起業支援等の現状

- 東小金井事業創造センター (K0-T0) を契機に東小金井駅近くの高架下に創業支援施設が集積し、ユニークな商業施設も整備され、個性ある産業集積が形成されつつある。
- 高質な創業支援を行っているものの、開業時には市外に出ていく傾向がみられる。
- 市内にはアニメ制作会社が多く立地しており、コンテンツの活用、クリエイターと連動した回遊イベント等も行われつつある。

	R2	R3	R4	R5	R6
入居数	20	13	19	21	17
退去企業数	1	4	2	2	3
退去時点の 市内定着数	1	3	1	2	0

農工大・多摩小金井ベンチャーポートの入居・退去の状況

	R2	R3	R4	R5	R6
入居数	69	76	71	80	73
退去企業数	25	14	25	15	21
退去時点の 市内定着数	5	2	9	3	3

東小金井事業創造センター (K0-T0) の入居・退去の状況

7. 小金井市の強みと弱み

■強み

- ・ J R 駅周辺では複合商業施設が開発されているが、小規模で地域に根差した商店・飲食店が多い。
- ・ 個性的な商品・サービスを提供する商業者がおり、ネットワークが形成されつつある。
- ・ 東小金井駅高架下を中心に創業・起業を目指す人たちが集っている。
- ・ 市民が、それら商業者を買い支えるマインドと経済力を有している。

■弱み

- ・ 高架化に伴う開発及び再開発の中で駅前商業はチェーン店が増加傾向にある。
- ・ 商店会会員の高齢化などによる担い手不足により、活動が困難になりつつある。
- ・ 建替え等に伴う商店の住宅化によるテナント不足・商店街の空洞化の恐れがある。
- ・ 商店街はよく使われているものの、加盟店の P R の場であるイベントに参加しない層が多い。
- ・ 食以外の商業者を取り巻く環境は厳しく、工業事業者の操業も限界がある。
- ・ 創業・起業支援に対して支援後の市内定着率が低い。

強みと弱みを踏まえると、小金井市の産業振興においては、複合商業施設の立地による利便性を担保しながらも、小金井ならではの個性的な商店・飲食店を核に据え、それら商店・飲食店を「目的地」となるよう誘客し、回遊性を高めながら周辺商店街へのシャワー効果、更には関連産業への経済循環を生み出すことが求められます。

同時に、創業・起業支援のまちから開業するまちへと発展するとともに、生活都市・小金井地域性を踏まえたものづくり産業の定着を図りながら、地域産業基盤の強化を図ることが必要です。そのためにも、現在の事業者とともに、まちの賑わいに興味を持って関わろうとする市民等を増やし、多様な主体の関わり合いの中で産業振興に取り組む必要があります。

第3章 産業振興の取組体系

1. 基本目標

**関わり合いが新たな魅力と目的地を生み出し、
市民と事業者が互いに支え合うことで、
まちの賑わいと産業が持続的に育まれる都市を実現する。**

令和3年度に策定した前プランの目標は「まちの特徴となる数多くの魅力を、事業者や市民が生み出し、見える化し、多くの人を楽しむ」でした。プラン策定時はコロナ禍でしたが、武蔵小金井駅周辺の再開発、オープンスペースの利活用、C o C oバスルートの再編による東小金井駅南口の安全性の確保などの取組が進められ、賑わいづくりに寄与しています。

これからも賑わいづくりに取り組む一方で、現状の課題を踏まえると地域産業基盤の形成による持続可能性の向上も重要課題となります。そこで、プラン改定に合わせて基本目標を上記のとおり変更し、賑わいづくりと地域産業基盤の形成を両輪として進めていきます。

2. 2つの視点

基本目標が賑わいづくりと地域産業基盤の形成を含むこととなったことから、取組を進める上での視点も次のとおり更新します。

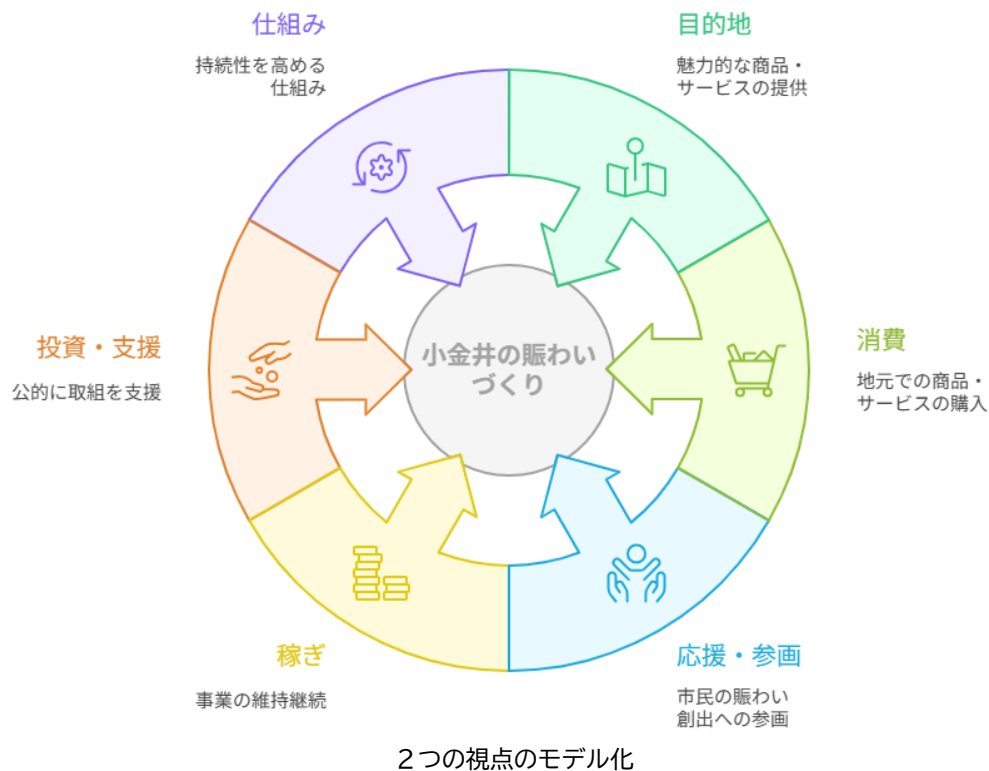
関わり合う「ひと」を増やし、新しい「こと」と「目的地（ところ）」をつくり、つなげる。

挑戦しやすく、続けやすい「仕組みと基盤」を整え、まちの魅力と産業が持続的に育つ環境をつくる。

一つめの視点は主に賑わいづくりに関わるもので、前プランの2つを踏襲しています。賑わいづくりを担う「ひと」、賑わいづくりのタネとなる商品やサービスである「こと」、そしてそれらを体験する目的地としての「ところ」の充実を図る視点です。

もう一つの視点は主に地域産業基盤の形成に関わります。前プランにおける「仕組み」を踏襲し、持続可能性を高める仕組み及び基盤の形成に取り組んでいきます。市民の参画や創業・起業、更には市内開業が活性化するためには受け入れる環境とともに制度及び人的ネットワークが必要です。また、市民に限らず事業者も継続するためには支援の仕組みが必要です。困難な現状を改善したい、何かを始めたい、更に質を高めたいといったそれぞれの段階において適切な支援が供えられた仕組みづくりに取り組んでいくことを、新たな視点として位置付けます。

この2つの視点をもって、目的地が生まれ、市民が消費し、賑わいづくりに参画するようになる中で、市内事業者が潤い、行政や中間支援団体による投資が還元され、徐々に仕組み化していくという循環を生み出していきます。



3. 6つの方針

前プランを踏襲しつつ、上記の循環に寄与するよう、次のとおり体系化します。

方針① 暮らして楽しい・訪れて楽しい魅力を生み出す	【目的地づくり】
方針② 魅力を生み出す人を育み、増やす	【人づくり】
方針③ 魅力を生み出す人をつなげ、応援する人を増やす	【ネットワーキング】
方針④ 住みたい・働きたい・訪れたいと思うような魅力を伝える	【プロモーション】
方針⑤ 誰もが安心して出かけられる環境をつくる	【まちづくり】
方針⑥ 事業・活動を継続していくための仕組みをつくる	【仕組みづくり】

第4章 方向性に基づく取組

方針① 暮らして楽しい・訪れて楽しい魅力を生み出す

■考え方

小金井市は駅周辺だけでなく、身近な生活圏においても商店街や公園、農地など多様に過ごし楽しむことのできる場があることが特徴です。この特徴をいかし、市内各所で「立ち寄りたくなる」「誰かに話したくなる」ような体験ができる機会をつくり、目的地を増やしていきます。機会を提供するのは商店・飲食店はもとより、公園や農地などのオープンスペースをいかしたイベントも含まれます。多様な主体とともに場をつくり、日々の暮らしに近いところでの魅力をつくっていきます。

■取組内容

駅周辺を中心としたチェーン店の立地は利便性をもたらすものとして維持しつつ、生活圏において楽しく暮らすことができる場所及び機会があることが重要です。その機会の一つがお祭り及びイベントであると捉え、小金井桜まつり、小金井阿波おどり大会、こがねい産業祭りなどの規模の大きなイベントを始め、商店会、地域の団体等が実施する季節のイベントの支援・創出に取り組むとともに、より多くの誘客を図り、地元の商店・飲食店とのタッチポイントとして機能するよう促します。また、道草市などを通じて形成された商業者のネットワーク及びオープンスペース活用のノウハウをいかし、公園、農地、空き地・空き家等を使った機会づくりにも継続して取り組んでいきます。

創業・起業に関しては、特に東小金井事業創造センター（K0-T0）を始めとする東小金井駅周辺の創業・起業支援施設の卒業生が、その周辺はもとより市内各所のテナントを引き継いで開業するようなルートをつくり、創業・起業支援と目的地づくりをつないでいきます。

そのためには本プランの計画期間中にテナントの継続立地や店舗の借りやすさなど、仕組みの面での有効な方策を関係各課と検討していきます。

■継続していく既存事業


①プラットフォームとしての道草市の運用促進

小金井の個性的な小商い・市民活動・創業準備者が出会い、挑戦ができる場として育ってきた「道草市」を、地域の魅力創出のプラットフォームとして継続的に運用します。商店・市民・農家などが協働し、多様な主体が関わる場づくりを通じて、生活圏での目的地形成及びコミュニティ醸成を図ります。

写真

②オープンスペース活用事業

専門知識、ノウハウ及び学生等の多様なリソースを有する大学等を中心とした多様な主体と協働し、公園・農地・空き地・空き家など、身近なオープンスペースをいかした企画づくりを支援し、地域の魅力を体験できる機会を増やしていきます。市域全体で活用できるオープンスペースを増やしていく中で、生鮮産品の出張販売などにも取り組むことで買物支援にもつなげることを検討します。



写真

■今後実施を検討する事業

①商店会の活性化につながる支援の試行と検証

魅力的な商店・飲食店を増やしていくためには商店街が活性化する必要があります。商店街の課題を捉え、本プランの期間中において商店会の活性化及び稼ぐ事業者の増進につながる取組について検討し、それを試行しながら来街者数や出店数等による効果測定を行い検証していきます。

②賑わい創出と連動した公園利活用の推進

公園の付加価値として賑わいを取り入れ、市内公園の利活用を多様な主体に開いて、魅力ある公園づくりと産業振興を連動させたイベントが開催できるよう、イベント等を行う際に公園を会場として利用できる制度及びそのプロセスについて、関係課及び市立公園指定管理者と連携して効果的な情報発信を進めていきます。

③提案型事業の検討

市民・事業者・創業者などから小金井での暮らしや地域価値を向上しようとする事業・活動等を公募し、賑わいづくり又は地域産業基盤の形成に資する提案に対して事業・活動を実装する上での伴走支援を行い、魅力の創出・磨き上げにつなげる公募プログラムを検討します。

提案型事業の考え方のイメージ

小金井市の暮らしの質の向上、地域価値創出、賑わい形成に資する事業案を幅広く募集し、採択された企画に対して助成を行う事業です。

対象は、商業・工業の事業者、創業準備者、副業・フリーランス、市民団体、個人等の多様な主体とし、「まずは一歩やってみる」「これまでやってきていることを深める」という挑戦を支援することで、賑わいづくりに参画する人を増やし、実際に賑わいをつくっていくことに取り組みます。

審査後には、採択者には中間支援団体による伴走支援を行うことで企画の磨き上げや、必要な協働者や施設とのマッチング、広報支援を行います。また、採択されなかった提案についても可能性のあるものについては次年度の提案に向けた助言等を行います。

■評価の考え方

評価は、①主体性・やる気、②暮らしの質への寄与、③地域産業基盤形成への寄与、④小金井らしさ、⑤実現性・継続性の観点から行う。このうち④については、多様性、人の関わり合い、地域資源（農地、公園、大学、個店等）の連携をもって評価するものとします。

■事後評価

実施後においても事業評価を行い、今後の賑わいづくり・地域産業基盤形成のノウハウとして中間支援団体において蓄積し、産業振興そのものの推進力としていきます。

方針② 魅力を生み出す人と育み、増やす

■考え方

魅力を生み出すためには、その創り手となる人が不可欠です。そのため挑戦しようとする事業者及び賑わいづくりに寄与するイベント等の企画者・運営者を後押しし、育てていくことに取り組みます。さらに、創り手を支える人材も不可欠であることから、スキルやノウハウを有する現役世代はもとより、学生の積極的な関わり、シニアの活動、障害者の活躍など、幅広い市民が賑わいづくりに関わり、多様性と活気に満ちた賑わいづくりに取り組みます。

■取組内容

コロナ禍を経て地元への関心が高まり、ビジネスにおいては副業及び社会貢献への取組が普及しつつある時流を捉え、事業者及び創業・起業希望者のみならず、多様なプレイヤーが賑わいづくりに関わるよう支援と学び合い機会をつくります。

既存の事業者においては商店会、商工会などの事業者ネットワークをいかした学び合いを促します。事業そのもののノウハウだけでなく、地域に関わり、地域を支えることで、支え返されるような関係をつくる、小金井ならではのビジネスを共有しながら、賑わいづくりに寄与し、自身も潤う事業者を増やしていきます。

また、創業・起業については、ビジネス志向に関しては東小金井事業創造センター（K0-T0）、農工大・多摩小金井ベンチャーポートなどにて産業基盤形成につながる支援を行い、コミュニティ志向の場合はまちの賑わい創出事業等におけるイベントでの実践機会の提供により「やってみたい」を支える環境づくりを通じて支えます。また、東京学芸大学を会場に開催される「青少年のための科学の祭典」東京大会 in 小金井は科学・工学に触れる機会であり、青少年の創業・起業マインドを高める機会として今後も継続していきます。

そのような魅力の創り手だけでなく、支え手の発掘・育成にも取り組みます。スキル・ノウハウを有する市民だけでなく、地域に対する関心を高めるとともに、「多様な人が関わり合い、支え合う」ことを実践し、まちの価値としていくためにも、市内の高校生・大学生、高齢者、専業主婦、障害者などが賑わいづくりに参画するための学びと実践に至るプログラムの開発を検討していきます。

■継続していく既存事業


①東小金井事業創造センター（K0-T0）の運営

東小金井事業創造センター（K0-T0）は公的な創業・起業支援施設として、創業希望者及びスモールビジネスの挑戦者に対し、相談支援、実践機会、ネットワーク形成及び資金調達方法の提供を一体的に提供し、「やってみたい」を実現に近づける拠点として機能強化を図りつつ、独立した事業者の市内での操業・営業継続につなげます。

写真

②農工大・多摩小金井ベンチャーポートの支援

東京都と小金井市の協力の下で独立行政法人中小企業基盤整備機構の施設として東京農業大学内にて運営されている農工大・多摩小金井ベンチャーポートについては、大学が有する知見・技術を活用した創業・起業を志す入居者に対して、産官学連携により創業・起業に向けた総合的な支援を行っていきます。



写真

③多様な創業・起業支援のPRの促進

東小金井事業創造センター（K0-T0）と農工大・多摩小金井ベンチャーポートのような創業・起業支援施設だけでなく、商工会、市内NPO団体などでも相談対応、金融機関の紹介などが行われていることから、創業・起業志望者のニーズに応じて適切な支援メニューを選択できるように、支援の特長やターゲットを分かりやすく伝えるPRを行います。

■今後実施を検討する事業

①新しい創造産業の誘導

生活都市であることを踏まえ、現在も多く立地するアニメーション制作企業を始めとするクリエイティブ産業や、ICT企業、デジタルファブリケーションによるものづくり企業など、小金井の魅力と親和性が高く、個性となるような事業者の誘導について方策を検討します。

②創業支援施設入居者の市内定着に向けたニーズ調査

創業段階の事業者が市内で長期的に活動できるよう、東小金井事業創造センター（K0-T0）と農工大・多摩小金井ベンチャーポートの入居者を対象として立地・テナント・働く環境等のニーズを把握します。この調査結果をもとに創り手が成長し、地域に根ざすための環境整備を関係各課と進めます。

方針③ 魅力を生み出す人をつなげ、応援する人を増やす

■考え方

「多様な人が関わり合い、支え合う」ことを実践し、それをまちの価値として高めていくためには、商店・飲食店を核として消費者とつなぎ、商店会を通じて地域をつなぎ、支え手となる市民と事業者・団体等をつないでいくことを目指します。さらに、行政、商工会、商店会、観光まちおこし協会などの地域や事業者の状況を把握する立場にある団体の横の連携を深め、市民や事業者も交えた対話の機会をつくるなど、創り手と支え手の緩やかなネットワークを形成していきます。

■取組内容


中間支援団体である3団体について、商店会を「事業者の地元ネットワーク」、商工会を「職種別ネットワーク」、観光まちおこし協会を「市民・事業者・創業支援をつなぐハブ」と位置付け、それぞれの役割を踏まえて事業者同士がつながり、支え手となる多様な市民と事業者とつなげていく機会をつくります。

市民と事業者の接続は、商店会における担い手不足やその伴う活動の属人化という現状を改善していくためにも重視して取り組みます。イベント実施に際しての現場での支援はもとより、イベント実施に係る運営等に対してスキル及びノウハウを提供することで組織的な活動に寄与するような関係づくりを可能とするマッチング方策について商店会と連携して検討していきます。

■継続していく既存事業

①まちの賑わい創出事業


観光まちおこし協会が取り組むまちの賑わい創出事業の一環として、賑わいづくりの担い手育成が行われています。賑わいづくりの輪に入り、関わりながら、やってみたいことをやってみる側へと移行していくことを後押しする機会をつくることで、賑わいづくりの仲間を増やすことに取り組みます。



写真

②わくわく都民農園こがねい

都市農地をいかした農体験及び交流の場を提供し、市民・農家・事業者が緩やかにつながる機会を創出します。農作業及び収穫体験を通じて世代を超えた関わりが生まれ、地域の支え手としての市民の役割を育むとともに、農産物を活用した事業者との連携へと広がる関係性の基盤を形成します。



写真

■今後実施を検討する事業

①若者のまちへの関心を醸成する機会のあり方検討

市内には都立・私立の高等学校及び専門学校、大学が多く立地していることをいかし、それら学校の生徒が商店街や賑わいづくり事業に参画する機会をつくることで、小金井というまちに関わる中で関心を深めるよう促すための方策を検討します。

また、市内事業者のビジネスを目にする機会をつくり、興味・関心を持ってもらうことを目的として近隣自治体とも連携し、SNS等を活用したプロモーションのほか、学生が事業所を巡るツアーの実施などを検討します。

②スキルを有する市民と事業者のマッチング方策の検討

小金井市にはビジネスに関して多様で高いスキル・ノウハウを有する市民が多く居住していると考えられます。このような土地の特性をいかし、多様な困り事を有する商店・飲食店やその他事業者、商店会と、その困り事の解消につながるスキル・ノウハウを有する市民をマッチングする取組について市と中間支援団体が連携して検討します。

③商業と福祉、教育、農業、地域コミュニティの連携促進

商店会を中心として、福祉、教育、農業及び地域コミュニティとの連携を図ることで、お互いの事業活動を支え合うような関係性をつくり、幅広い参画が可能な関係性の基盤をつくる方策を検討していきます。

また市内の様々なイベントについて、賑わい創出や地域産業基盤の形成につながる可能性がある場合には、市や中間支援団体等が支援・関与し、市内事業者の参画も促しながら相乗効果を得ながらイベントの活性化を図ります。

方針④ 住みたい・働きたい・訪れたいと思うような魅力を伝える

■考え方

小さく地域に根差した魅力に気付いてもらうよう、日々の暮らしの中で立ち寄りたくなる店や地域に愛着を感じられる場所のように生活に近い場所での魅力、また、そのような魅力を生み出そうという活動に特に着目し、その魅力を伝えるプロモーションに取り組めます。そして、その取組を市民参画によって推進することで、「多様な人が関わり合い、支え合う」ことそのものが地域性として共有されるよう努めます。

■取組内容

小金井の魅力である美しく質の高い自然環境はもとより、商業的・観光的に魅力のある店や場所、楽しいお祭り・イベント、創業・起業の場としての魅力、農の持つ魅力、市内事業者の活動、先端的な研究活動や人材、学生などを擁する大学等の教育機関も 小金井の魅力と捉えます。それらを暮らしのなかで体感できる魅力として発信するとともに、まち歩きを促すように複数の魅力をあわせて発信することで、小金井固有の魅力として周知していきます。

市は、「ほどよく都会、ほどよく田舎」であることを小金井市の魅力とした小金井市シティプロモーション基本方針を令和元年度に策定しました。都会的な魅力と自然や地域性といった田舎的な魅力をともに感じられることは暮らしの質と言え、それぞれの魅力が重なり合うシーンを伝える広報に取り組んでいきます。

また商店・飲食店におけるSNSの利用は普及しているものの「魅力を的確に伝える」ことには工夫の余地があると言えます。商店・飲食店のノウハウ向上とともに、SNSで小金井の魅力を積極的に発信しているアカウントと連携し、PRに取り組むことも検討します。

■継続していく既存事業

①シティプロモーションの展開

小金井市の「ほどよく都会、ほどよく田舎」という特性や、地域に根差した個店・農・文化・大学など多様な魅力を市民目線で掘り起こし、効果的に発信します。特に『小金井このまちガイド』の改定発行や『小金井市イベントガイドお祭りGO!』の定期的発行について検討していきます。

また、新機軸として市内コンテンツ産業の立地をいかした取組も検討します。

市民と事業者が主体的に関わるプロモーションを通じて、まちへの愛着や誇りを育み、住みたい・訪れたいと思える魅力の醸成につなげます。

写真

②創業・起業による東小金井駅周辺のエリアブランディングの発信

創業支援施設、大学及び個性的な小売が集積する東小金井駅周辺の特性をいかし、創業者の挑戦や活動を積極的に可視化・発信します。地域で生まれる新しい価値及びつながりを市全体の魅力として共有し、まちの創造性を感じられるエリアブランドの形成を図ります。

③商店街等の地域イベントに対する支援

市内では商工会、商店会及び観光まちおこし協会を始め、自治会などの地域コミュニティが様々なイベントを開催しています。

市としては、広報、イベント会場の提供などの後方支援を今後も継続していきます。さらに、店主の高齢化や加盟店の減少によって運営やイベント時の対応などが人的に難しくなっている状況を踏まえ、参画意欲のある市民等と商店会とのマッチングなどの支援方策を検討します。

写真

④市内コンテンツ産業と連携した回遊の促進

市内コンテンツ産業との連携はシティプロモーションにとどまらず、アニメに登場する場所を巡る「聖地巡礼」、コンテンツを用いたスタンプラリーなど、コンテンツの誘因力をいかした回遊促進によって駅から離れた商店街及び商店・飲食店に触れる機会づくりにも取り組みます。

写真

■今後実施を検討する事業

①SNS等の活用による魅力発信の活性化

市内の商店・飲食店のSNS活用やインターネット上の情報発信の活性化に向けた講座開催等の支援を行うとともに、既に商店・飲食店等を魅力的に発信している市民等と連携し、アカウントへのリンクや投稿の再掲などにより魅力を目にする機会を増やす手法について検討します。また、ゲーム的に地域の魅力を発信する仕掛けを検討し、発信する市民等を増やすことも検討していきます。

方針⑥ 誰もが安心して出かけられる環境をつくる

■考え方

人が商店・飲食店に出かけるためには、その魅力だけでなく、「アクセスのしやすさ」も重要です。市内での移動手段はバスや自転車、徒歩が多い状況の中では移動環境によって商店街利用や回遊性が左右されます。

ただし、住宅市街地が形成されている中では道路拡幅などの基盤整備は困難です。そのため、移動に際しての安全確保はもとより、市内バス運行の最適化を図りつつ、自転車でのアクセスしやすさを高めることを目指します。

■取組内容

誰もが安心して快適に移動ができるよう、道路整備、街路灯のＬＥＤ化などのハード面の取組に加えて、商店会や地域団体と連携した見守りやあいさつ運動などの地域コミュニティに根差したソフト面での取組も行い、安心安全な交通環境を整備しています。また、道路の問題解消を迅速に取り組むため、ＬＩＮＥを活用し、市民が気付いた道路の破損や陥没などの異常について情報提供を受け付けています。

アクセスのしやすさについては、市内におけるバスの運行については運転手不足が問題となっている現状を踏まえてバス事業者と協議しながら、持続可能性とアクセス性の両立を図る最適化を目指します。それとともに自転車で商店街に出かけやすくなるよう、商店会及びテナント所有者とも連携し、駐輪場の確保に努めていきます。

■継続していく既存事業

① ＬＩＮＥを用いた道路情報の収集（他課実施事業）

市民が日常生活の中で気付いた道路損傷及び危険箇所をＬＩＮＥで迅速に通報できる仕組みを活用し、細やかな維持管理と安全確保を図ります。地域の目による情報提供は、商店街への安心したアクセス及び歩行環境の質を高める要素となり、身近な移動の快適性向上に寄与します。

② 多様な交通手段を複合化した持続可能な交通体系の検討（他課実施事業）

バスの運転手不足、交通需要の変化などを踏まえ、市内交通の持続可能性と利便性を両立するために、バス、自転車、徒歩、シェアモビリティなどを複合的に捉えた交通体系の検討を進めます。商店街や地域拠点へのアクセスしやすい移動環境を整備し、回遊性の向上及び地域活動の活性化につなげます。

■今後実施を検討する事業

① 空き店舗等を活用した駐輪場の確保・整備方法の検討

商店街へのアクセス性を高めるためには駐輪場が必要となります。ただし、そのための土地取得が容易でないことから、商店会及びテナント所有者と連携し、空き店舗及び空きスペースを活用した駐輪場の確保・整備の方策について検討します。

方針⑥ 事業・活動を継続していくための仕組みをつくる

■考え方

商業・工業事業者が地域産業基盤となっていく上では、操業・営業を続けることのできる事業所の「体力」が大切です。経営状況の改善に向けた財政的支援だけでなく、雇用や人材育成、営業経費の支援など、幅広い支援を行い、事業所としての持続可能性が維持・向上されることを目指します。

■取組内容

事業所の体力は第一には維持と底支えが必要です。そのためには支援制度そのものの充実のもとより、事業者にとって使いやすい仕組みとして機能させることが重要であり、制度の周知徹底はもとより中間支援団体が中心となって支援を必要とする事業者と制度のマッチングに取り組むなど、利用促進を図っていきます。

融資あっせん、経営指導、人材マッチング等の取組は継続しつつ、DX導入や業務効率化、人材育成への取組を後押しする支援のあり方を検討します。さらに中間支援団体がそれぞれの役割や特長を活かした取り組みをすることで、事業者の体力向上を図ります。

特に工業分野においては、商工会が中心となって展示会出展などによる情報発信を促し、受注機会の拡大につなげます。

あわせて、商工会・商店会・観光まちおこし協会等が事業者の声を把握し、市と共有する意見交換の場を設け、支援制度の改善や新たな施策の検討につなげます。こうした取組を通じて、稼ぐ事業者を増やし、地域産業基盤を持続的に強化していきます。

■継続していく既存事業

①小規模事業者の経営支援

事業継続や設備更新、仕入れ負担の軽減など、日常的な資金需要に対応するため、小口融資のあっせんや信用保証料補助などを通じて事業者の資金調達を支援します。商工会の専門性と市の相談体制を連携させ、経営体力の維持に寄与する、使いやすい資金支援の在り方を検討していきます。融資を希望する事業者が必要とする制度を選択できるようにするとともに、融資を要する事業者の後押しをすることに取り組みます。

■今後実施を検討する事業

①意見交換の場

商工会、商店会、観光まちおこし協会、JA、大学などの参加する意見交換の場を行政として設け、事業者の経営課題や支援ニーズを共有します。また、過去に実施した商業者の勉強会「黄金井あきないクラブ」も参考にした事業者の学び合いの機会についても開催を検討します。さらに武蔵小金井駅と東小金井駅の周辺エリアの活性化やエリアブランディングのため、鉄道事業者を始めとする関係者とも定期的に意見交換を行い、効果的な施策を講じていきます。

また、消費者である市民の意見を取り入れるためヒアリングやアンケートを行うことを検

討します。横の連携を強化するとともに市民ともつながりをつくることで、支援制度の改善、情報発信の効率化、事業者同士の協働促進につなげ、地域産業基盤を総合的に高める仕組みとして機能させます。

②小規模事業者向けDX導入サポートの検討

社会的に情報化が進展する中、商店・飲食店においては電子決済導入が集客力に関わる状況となっています。また、商業者・工業者に関わらず、ICT導入はもとよりAI、IoT及びRPAの導入は人材不足の解消と効率的な営業・操業につながります。ただし、小規模事業者は資金的体力に加えて、情報やノウハウの収集に課題があるのも事実です。そのため、市と商工会が連携し、小規模事業者を対象としたDX導入サポートの在り方を検討します。

③地域産業の担い手育成のための支援の試行と検証

稼ぐ事業者が継続して営業・操業でき、また稼ぐ事業者を増やしていくため、事業承継や後継者確保、若手人材の育成を促すため、研修・資格取得・技能習得、展示会出展などへの支援を検討します。事業者の強みをいかした技術やノウハウが次世代へ継承されるよう、商工会及び業界団体と連携して持続可能な地域産業基盤の形成を図ります。

④福祉的な雇用に対する支援の検討

障害者、高齢者など、多様な人々の雇用に関する支援を関係機関と連携しながら検討します。事業者の負担軽減と社会的包摂を両立し、働く場における支え合いの関係を広げること、多様な参画を産業の価値としていきます。

第5章 プランの実行に向けて

1. 市の役割

産業振興の主役は第一に事業者であり、質の高い事業、サービス及び商品を提供することで収益を上げながら、市民の暮らしを豊かにし、賑わいをつくっていくこととなります。また、市民には暮らしを豊かにしてくれる商店・飲食店を応援すること、更には賑わい創出に参画することが期待されます。

事業者の営業・操業と市民の応援・参画のためにも、市は産業振興の旗振り役として、事業者や団体、市民一人一人の活動に対して支援が行き届くよう、中間支援団体の活動を支え、促していきます。また、中間支援団体である商工会、商店会及び観光まちおこし協会の活動が相乗効果を生むよう連携を促すことにも取り組みます。

一方で、産業振興に関心を持ち、参画意向を有する市民に対しては、中間支援団体と連携して参画機会をつくることで連携を図っていきます。

このような地域におけるコーディネーターとしての役割を果たしていく上で、産業振興のための知識やノウハウ、人的ネットワークを担当課として蓄積し、継承していくことにも取り組んでいきます。あわせて、支援制度の設計・改善、関係主体が集う意見交換の場の運営、取組状況の可視化と検証など、大小様々な稼ぐ事業者を増やすプランへと展開していくため、本プランの計画期間5年間で計画的に運用していきます。

2. 各主体の役割

■事業者

- ・各々の事業継続を図り、後継者を確保することに努める。
- ・商工会、商店会及び観光まちおこし協会を通じて同業の事業者間の連携を図るとともに、異業種・異分野の事業者、市民との連携を図る。
- ・商工会、商店会及び観光まちおこし協会との連携を通じた地域活動はもとより、事業者個々の取組としても地域活動に関わる。

■商店会

- ・周辺住民が魅力を感じ、多くの人が訪れるようになる商店街振興に取り組む。
- ・商店街に人を呼び込み、商店会に加盟する商店の事業継続につなげる。
- ・加盟する商店同士が経営面で助言をするなど、支え合いによる事業継続を担保する。
- ・商店会同士が連携し、情報共有やイベント共催、広報活動を行うことで市内全体での商業活性化に取り組む。
- ・市、商工会及び観光まちおこし協会と連携した地域振興に取り組む主体として、様々な活動に事業者や活動に関心のある市民を巻き込んでいく。
- ・加盟する商店や地域活動を周辺に広報するとともに、担い手確保や会員組織拡充に取り組む、持続可能性を高める。

■商工会

- ・主に商業と工業に関して事業者の経営面の助言及び情報提供を行い、事業継続を支援する。
- ・事業者の課題やニーズを把握し、商工会が保有する情報はもとより、市につなぐことで、的確な支援を行う中間支援的な役割も強化していく。
- ・市や商店会、観光まちおこし協会と連携し、地域振興に取り組む主体として、事業者や活動に関心のある市民を巻き込んでいく。
- ・加盟する事業者や地域活動、支援策を広く広報するとともに、担い手確保や会員組織拡充に取り組み、持続可能性を高める。

■観光まちおこし協会

- ・地域の事業・活動の魅力に気付く機会づくりとして、市民目線で編集・発信するメディア機能を担う。
- ・会員組織を拡充し、情報共有と協働機会を通じて緩やかなネットワークを形成する。
- ・商店会・商工会・J A・大学・市民団体等と連携し、相談・伴走支援を行う中間支援機能を強化する。
- ・副業・スモールビジネス・市民発の企画等の立ち上げ支援を担う。
- ・地域資源をいかした試行的事業を企画・実行し、成果を行政や中間支援団体等に展開する。

■農業者、J A、農業振興連合会

- ・（農業者）小金井農業の担い手として安定的・持続的に営農し、農地を保全するとともに、小金井市ならではの特色のある農産物をつくる。
- ・（農業者）J Aや農業振興連合会の取組の意義を理解し、必要な協力をする。
- ・（J A、農業振興連合会）各主体との連携を図り、商工会、商店会、観光まちおこし協会等とも協力し、事業・活動を推進する。
- ・事業者や市民とつながり、地産地消の推進や農産物の加工品の開発などに取り組み、小金井農業のブランド化を図り、農業の魅力を広く発信する。

■市民団体・地域団体、大学等

- ・魅力づくりを応援する立場として、地域や商店会等のイベントに参加する。
- ・小金井市の産業振興の主体となり、事業者や各種団体等と連携しながら、学びや地域コミュニティ、福祉などと産業振興を関連付けて地域の魅力づくりに取り組む。



3. 評価の考え方

本プランは賑わいづくりと地域産業基盤の形成が両輪となってまちを活性化しようとするものです。そのため事業の質的な評価とともに、商店・飲食店数や誘客といった目的地の形成、参画に対する関心、地域産業基盤を形成する事業者数によって両輪の推進を量的に評価できると考えます。

そこで、定期的に実施している「小金井市商業・工業基礎調査」や本プラン改定に際して実施したアンケート調査等に基づき、次の指標を位置付けます。

観点	指標	現状値
目的地の形成	小売業、飲食店・宿泊業に該当する事業所 ※経済センサスにおける「小売業」（中分類）、「飲食店・宿泊業」（大分類）に該当する事業所数の合計	749 件 (R3)
	商店街店舗利用者 ※「小金井市商業・工業基礎調査」の消費者買物調査の商店街利用を尋ねる設問での「ほぼ毎日利用する」「よく利用する（毎日ではない）」の回答割合の合計	32.9% (R7)
	市内で飲食・喫茶をする人 ※「小金井市商業・工業基礎調査」の買物の場所・店舗を訪ねる設問のうち外食・喫茶について尋ねる設問での「武蔵小金井駅北口周辺」「武蔵小金井駅南口周辺」「東小金井駅周辺」「新小金井駅周辺」「市内その他・最寄の商店街」の回答割合の合計	64.5% (R7)
	商店街イベント参加者 ※「小金井市商業・工業基礎調査」の消費者買物調査の商店街のイベント参加を尋ねる設問での「時間があれば行く」「ほぼ必ず行」の回答割合の合計	22.7% (R7)
市民参画の促進	参画意欲を有する人 ※本プラン改定に際して実施したアンケートでの「賑わい創出への参画意向」を訪ねる設問での「ボランティアで協力する立場」「企画・運営する立場」の回答割合の合計	26.2% (R7)
地域産業基盤の形成	工業事業者数 ※「小金井市商業・工業基礎調査」における工業事業所調査の対象事業所数	92 社 (R7)
総合	買物環境に対する満足度 ※「小金井市商業・工業基礎調査」の消費者買物調査の買物・食事の環境の満足度に関する設問での「満足している」「まあ満足している」の回答割合の合計	51.3% (R7)

事業の質的な充実を図るとともに、それによって上記の指標の維持・増加が図られると捉え、計画期間が終了する5年後には指標の経過をもって本プランの取組の評価を行い、次期プランにおける「稼ぐ」ことへの投資のあり方について検討します。

また、本プランの計画期間中においても、質的な評価とともに、これら指標を用いた量的な評価を適宜参照することで効果的な支援のあり方を検討しながら、賑わいづくりと地域産業基盤の形成により資する施策を推進・促進できるよう努めます。